

芳賀地方水田農業研究会について

令和4(2022)年6月17日
芳賀農業振興事務所

1 趣旨

昨今の水田農業は、国内人口の減少やコロナ禍の影響による米価の大幅な下落に加え、資材の著しい高騰に伴う生産コストの上昇など、大変厳しい状況に直面している。

そこで、関係者による研究会を立ち上げ、水田農業における課題点や優良事例を共有するとともに、持続的で収益性の高い新たな地域水田農業構造を確立するための方策を検討・推進する。

2 構成 市町、市町農業再生協議会、農業団体、芳賀農業振興事務所（事務局）

3 内容

(1) 地域水田農業の現状と取り巻く環境の確認

・担い手の動向 ・農地の動向 ・作物別作付状況 等

(2) 新たな地域水田農業構造の確立に向けた方策の検討・推進

・芳賀地域の水田農業を持続的で収益性の高い新たな構造へと変革するため、次の6つの「芳賀地方水田農業変革プロジェクト」を推進する。

① 米づくりコスト低減プロジェクト

・農業用ドローンなど省力化技術の導入促進
・畜産農家との連携による家畜ふん堆肥の利用推進

② 麦類増産プロジェクト

・需要を捉えた麦類の生産拡大の推進
・事業を活用した団地化の推進、排水対策技術の導入促進、機械等の導入促進

③ 大豆増産プロジェクト

・既存生産者を主な対象とした生産拡大の推進
・事業を活用した団地化の推進、排水対策技術の導入促進、機械等の導入促進

④ 露地野菜増産プロジェクト

・重点推進品目の設定（ねぎ、たまねぎ、キャベツ、にんじん、さつまいも、じゃがいも）
・園芸モデル産地、メガ産地を中心とした生産拡大の推進

⑤ 畑地化推進プロジェクト

・畑作物を連続して作付けしている水田の状況把握
・基盤整備等を活用した畑地化の推進

⑥ 農地集積・集約加速化プロジェクト

・人・農地プラン重点推進地区を中心とした農地の集積・集約化の推進

4 スケジュール

- R4.6.16 第1回研究会（現状確認、対応方策検討に向けた情報共有）
R4.8. 第2回研究会（対応方策の検討、整理）
R4.10～11 先進地事例調査
R5.1 第3回研究会（作付参考値、国の施策見直しを踏まえた推進方策検討）
R5.2 （市町水田農業取組方針への反映）

【背景】

- 主食用米の消費量減少の加速化（全国：▲8万ト/年 ⇒▲10万ト/年）
- 国の水田活用直接支払制度の見直し（R4～）
 - ・飼料用米支援の見直し（複数年契約の配分単価半減、新規支援廃止）
 - ・対象水田の見直し（主食用米を5年間作付けしない場合は対象から除外）
 - ・畑地化への支援強化（R5まで高単価）